別添２

令和８年度全国学力・学習状況調査　江差町内の状況及び今後の改善方策

小学校数:3校、児童数:26人　中学校数:2校、生徒数:34人

○　教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

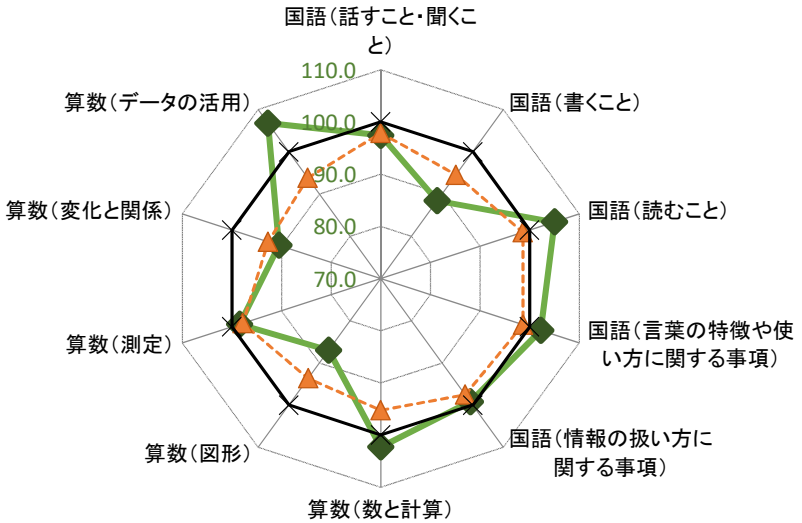
・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
・中学校英語の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

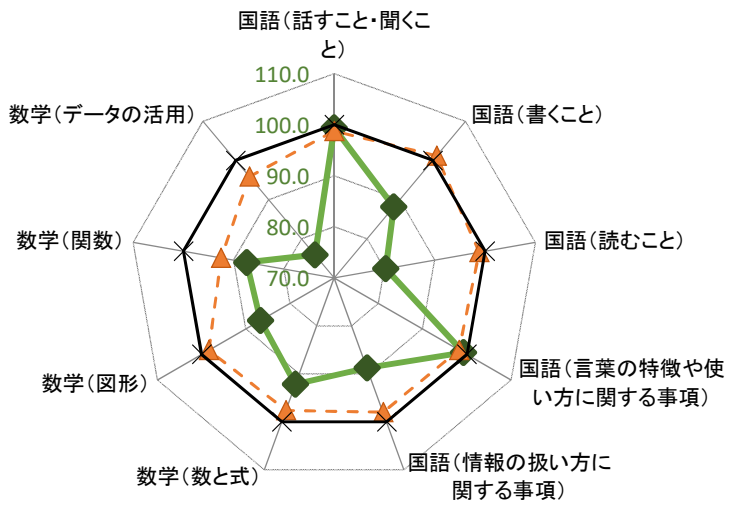
※中学校英語は4技能（聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと）の平均IRTスコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
江差町	61	56	59	49	426
北海道（公立）	59.6	53.6	63.3	55.0	490
全国（公立）	60.9	56.4	63.9	57.0	499

小学校

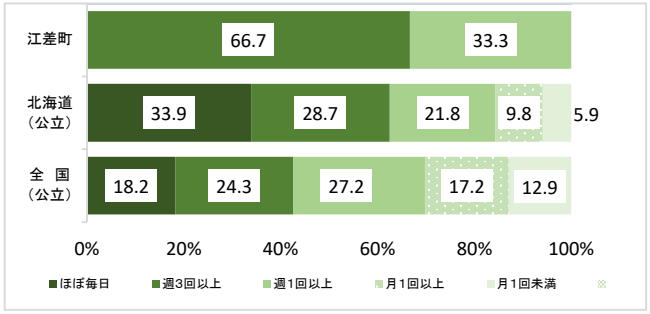


中学校

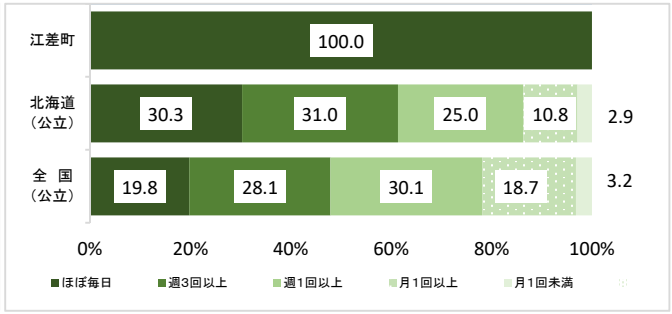


○ 質問調査の状況

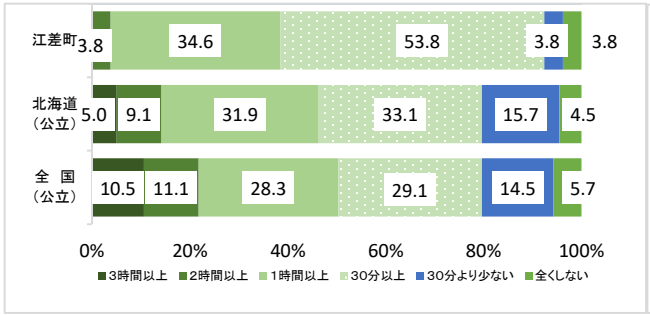
小学校
＜学校質問＞
児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



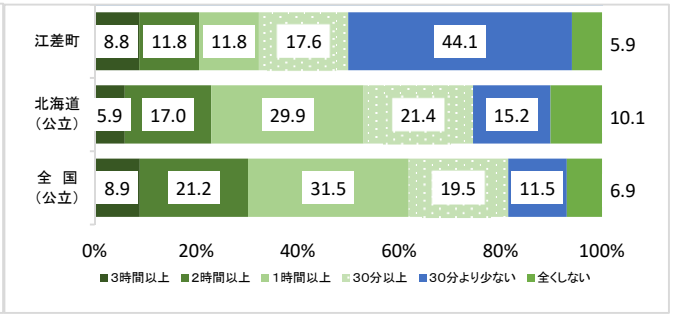
中学校
＜学校質問＞
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



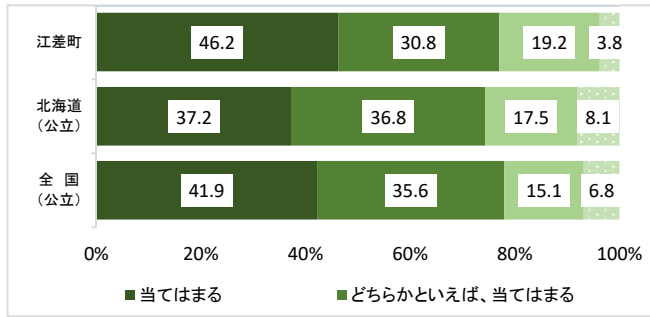
小学校
＜児童質問＞
学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



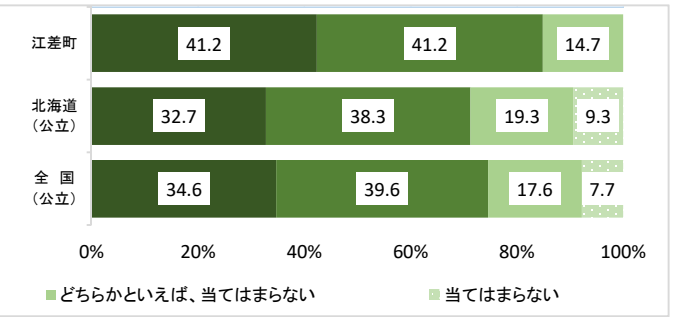
中学校
＜生徒質問＞
学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



小学校
＜児童質問＞
算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校
＜生徒質問＞
数学の授業の内容はよく分かりますか



○ 調査結果の分析

・ICTを活用した授業実践については、町の教育推進計画にも示されている。各小・中学校において取り組まれ、特に中学校において活用が進んでいる。今後はアナログとデジタルの融合を視野に効果的な教育実践への検証改善を更に進めていく。

・児童生徒質問紙からは、授業のわかりやすさが肯定的に示されている。児童生徒と教員の良好な関係が表れているものと思われる。「学習したことが将来社会に出て役立つと思うか」という問いに対して、特に小学校において肯定的傾向が強く、目的意識が形成されている点が、国語や算数の平均正答率が全国と同様という結果に結びついていると思われる。

・家庭学習時間の少なさは、小・中学校ともに課題であり、特に中学校において顕著であることが、平均正答率が低くなっている結果に関係していると考えられる。学ぶ目的を児童生徒が理解し、学習意欲が向上する働きかけを行っていく必要がある。

○ 今後の改善方策

・環境整備を含めたICTの効果的な活用やキャリア教育を通じた学習することの必要性の醸成、家庭と連携した取組を進め、家庭学習時間の増加につなげる。

・児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を図ることにより、児童生徒一人一人の資質・能力の確実な育成を目指した取組を推進する。